

めざす子ども像 確かなつながりの中で、自ら学び続ける心豊かなたくましい子

取組目標 「地域を守る人づくり」を目指し、学校・保護者・地域各種団体の連携をより一層促し、子どもたちの「人、事、物」の様々な体験の取組を充実する。

【今年度の取り組み】

平城西中学校区防災フェス 2019



避難所開設訓練

避難者カードを全戸配布し、受付をスムーズに



体育館に段ボールベッド・仕切りを設置

【今年度のまとめ】

昨年度、「防災フェス」が熱中症対策のために開催中止となったことを反省点とし、開催時期を2学期に設定しました。地区自治連合会・自主防災防災協議会など地域全体を巻き込み、地域主導の防災イベントを開催できました。初めて平城西中学校の体育館・校庭での避難所開設訓練を実施し、高齢者から幼児まで多くの方々が参加し、「地域の繋がり」を育む大切な機会となりました。

ボランティアのそれぞれの活動は年間を通じて定期的、継続的に行なわれ、学校支援の輪は保たれています。しかし支援者の高齢化は進み、地域全体への事業の周知はいまだに途半ばと思われ、広報の充実を今年度のコーディネーター活動の課題として取り組みました。

【来年度に向けて】

- ・取組全体を振り返り、組織、運営方法を見直し、持続可能な活動へと構築したいです。
- ・心に響く広報活動を心掛け、事業の理解を深め、活動への興味をかき立て、参加者を募ります。
- ・子ども達が自らのエネルギーを引き出す企画を広い視野を持って立ち上げ、スタートします。

めざす子ども像

確かなつながりの中で、 自ら学び続ける心豊かなたくましい子

取組目標

- ・防災体験学習やゲストティーチャー招聘などの事業を通し、地域の多くの方々との出会いやつながりをもつことによって、学校が地域の課題(防災)への取組の場となり、子どもたちの心や夢を育む豊かな学びの場となるようにする。

今年も中学校を中心とした地域の防災活動、人と人との絆を大切に地域との交流を深める取組をポイントとして活動を行いました。

◆救急救命講習 11月29日(金)

平城西中学校区地域教育協議会では、幼稚園・小学校からの連続した学びとして「防災」教育に取り組んでいます。その一環として、中学校では地元の奈良市北消防署のご協力のもと「助けられる側から助ける側に！」を合い言葉に、1～2年生で心肺蘇生法やAEDの使用法などを中心とした「普通救命講習」を受講し、3年生ではもう一度復習の講習を受講しています。災害時のみならず家族や仲間の命を万が一の時に助けられるよう準備をしています。



◆防災フェス 2019 12月8日(日)

中学校が避難所となることを想定して、「難所開設訓練」を中心に地域の防災隊や北消防署、高の原中央病院など様々な団体のご協力のもと「防災フェス 2019」を行いました。後半では「放水体験」や「大声体験」などの取組が実施され、中学生も非常時を想定した様々な体験をすることができました。



◆地域一斉清掃 12月14日(土)

中学校周辺の一斉清掃に地域の方々と共に取り組みました。200名を超える参加があり、中学校・神功小学校・神功こども園周辺の落ち葉清掃・溝掃除に汗を流しました。「ご苦労様」と声を掛けて頂き、生徒たちは地域の一員であることを実感していました。



地域ボランティアのみなさんによる日々の環境整備活動・図書室支援活動において、中学校では地域の方々との交流がごく自然な当たり前の風景となっており、生徒は地域の人々とふれあい、見守られていることを理解し、安心して学校生活を送ることができています。また「校区一斉清掃」においては、貴重な体験を通して防災や地域環境への意識が高まると同時に、普段は学校と直接かかわることがない地域の方々と接することで、地域住民としての自覚も芽生えています。

地域における中学生の存在が、防災活動でも重要になってきています。これまで行ってきた「防災フェス」の中身も含め、取組のより一層の充実と改善を図り、「頼られる存在」としての自覚をもたせたいと考えています。また来年度は学習面においても地域の協力を得るなど、ボランティアの皆さんと一緒に活動する機会を増やしていくことによって、さらに地域の一員であるとの意識と同時に感謝の気持ちをもたせられるようにしていきたいと考えています。

めざす子ども像

確かなつながりの中で、自ら学び続ける**心豊かなたくましい子**

取組目標

地域への意識を高め、地域活動に積極的に参加する児童を育てる今年度の取組紹介

○地域・親子合同清掃（9月7日）

2学期が始まって間もない土曜日、保護者・地域の方・本校教職員など、150名ほどが右京小学校の運動場に集まってくださいました。年々児童数が減少し、夏が過ぎると運動場が草一面になります。今回も集まっていたあなたで草引きを中心に清掃活動を行っていただきました。おかげさまで運動場の草はなくなり、安全に安心して運動会の練習に取り組むことができ、運動会も大成功をおさめることができました。また運動会当日は、清掃活動に来ていただいた地域の方も多数参加してくださり、子ども達に声援を送ってくださっていました。



○右京地区防災訓練（10月27日）



異常気象等による災害が各地で発生しており、「自分の命を守るため（自助）、家族や隣近所の方々を守るため（共助）」地域での防災訓練に参加して万一の災害発生時に備える目的で実施されました。6年生が防災訓練ポスターを描き、掲示でアピールしてくれたおかげで、保護者・地域の方・本校教職員と多数の参加がありました。煙避難訓練、救急救命訓練、炊き出し訓練など、様々な体験活動を通して防災意識を高めることができました。

今年度のまとめ

- プール学習に、地域の方と共に8年連続で外部機関から講師を招聘したことは、児童の泳力向上に成果がありました。泳げることに自信をもち、意欲的に授業を受ける児童が増えました。
- 消防署の協力も得て、各学年で系統的に取り組んでいる防災学習や地域の防災訓練への児童の積極的な参加等を通じて、防災や地域の一員であることの意識をより一層高めることができました。
- 環境ボランティアさんの活動や万年青年クラブをはじめとする地域の方々の学習支援、右京おはなしの会の活動は学校力を高める大きな一助となっています。

来年度に向けて

- 今年度のテーマ・目標・事業を継承し、さらに地域・家庭・学校のつながりを深める取組を進め、自分の住んでいる町の魅力についてより知ってもらいたいと考えています。

めざす子ども像

確かなつながりの中で、自ら学び続ける心豊かなたくましい子

取組目標

地域と共に心を耕し、夢を育む神功の子 ～学びの場をともに豊かに！～

今年度の取組紹介

●落ち葉拾い

12月14日、平城西中校区清掃活動として、落ち葉拾いを行いました。この季節になると学校内外が大量の落ち葉であふれます。学校のクリーンタイムで児童が校内と遊歩道の落ち葉清掃をしていましたが、なかなか追いつきません。地域、保護者、社会体育の関係者、平城西中学校の生徒など、多くの人々の協力によって落ち葉がすっかりなくなりました。

●福祉・高齢者疑似体験

10月25日、11月21日3・4時間目に、4年生福祉・高齢者疑似体験が行われました。神功地区社会福祉協議会と奈良市社会福祉協議会にご協力いただき、11名のゲストティーチャーに教えていただきました。車いす体験は体育館からプロティ・職員室前の廊下を通して正面玄関までのルートを、車いすに「乗る」「押す」を交代して往復する体験をしました。ちょっとした段差があるとたちまち押せなくなり、前へ進めません。学校は段差だらけで大変でした。バリアフリーはとても大切なことだと改めて実感しました。



今年度のまとめ

ゲストティーチャー招聘事業の中で出会ったたくさんの地域やボランティアの方々から、子どもたちは豊かな体験や知識を学ぶことができました。そして、自分たちのくらす地域や奈良を愛し、大切に思う心も受け継ぐきっかけになりました。このような取組を通して、子どもたちの中には、地域の見守り活動をして下さる方々に、あいさつする姿が増えてきています。

来年度に向けて

防災学習を継続する中で、子どもたちに「自助」の力をつけつつ、地域の中での「共助」へと高めていけるように取組を継続・発展させていきたいと考えています。

児童見守り事業については、昨年度に続いて学校、PTA 及び地域の関係者が集まり意見を交換しました。今後も年1回のペースで意見交換会を実施する方向です。

めざす子ども像

**確かなつながりの中で、自ら学び続ける心豊かな
たくましい子**

取組目標

地域の方とのかかわりを通して子どもが豊かな経験をし、遊びや生活の刺激となるような取組の充実

今年度の取組紹介

教育支援事業（科学で遊ぼう）

傘袋を使用したロケット作りをした後、園庭でペットボトルロケットを見せてもらいました。ペットボトルが勢いよく飛び出す様子を見た子どもたちは、「すごい！」と歓声をあげ、「どうしてロケットが飛び出すのかな」と興味をもちました。そしてボランティアの方から燃料がクエン酸と重曹であることを教えていただきました。この時期、クエン酸、重曹等を使って「粉遊び」をしていた5歳児にとってクエン酸、重曹は、身近なものであったため、「え！重曹とクエン酸」「だから、（混ぜた時に）プツプツしてたんや」と自分たちの経験したことと、ペットボトルが飛び出す様子を結び付けて驚きながらも納得した様子でした。



今年度のまとめ

教育支援事業では、子どもたちの生活や遊びの刺激となるような活動内容、時期を考慮し、計画した。それによって、活動内容と子どもたちの経験が結び付き、遊びや生活の刺激となりました。また今年度は、新たに絵本整理の活動を地域ボランティアとともにできたことで、お話が大好きな子どもたちは、家庭でもお話を楽しんで読む姿につながりました。

このような世代や職業の異なる地域の方とのかかわりは、多様な世代とかわることが少ない園児にとってよい機会となっており、子どもの人とかわる力の基盤となっています。

来年度に向けて

単発的な活動に終わらないように、保育のねらい、子どもの実態を職員間で共通理解し、事業を年間計画に位置付けていきます。また、子どもの興味・関心に応じて保育内容を見直し、より子どもにとって豊かな経験になるようにします。